

**肥大は順調！**  
**できるだけ早く仕上げ摘果を行う!!**  
**「7月初め」の薬剤散布は6月30日～7月1日頃!!!**

## I 概 要

6月21日現在の果実肥大は、各品種とも平年並から平年を上回っている。

着果量が十分な場合は、品種別の標準的な着果程度を目安に、できるだけ早く仕上げ摘果を行う。中心果だけで標準的な着果程度を確保できない場合は、側果も利用する。着果量が不足している場合は、樹勢が強くなることがあるので、調節のために発育や形の悪い果実でも残すようにする。ただし、隔年結果を避けるため、過度に成らせないように注意する。

「7月初め」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で6月30日～7月1日頃に実施する。散布むらが生じないように基準散布量を守り、降雨前の散布を徹底する。

雪害樹は樹勢が強くなりやすいので、摘果、徒長枝の整理、ビターピット対策など適切な管理を行う。

## Ⅱ りんご生産情報

### 1 果実肥大、結実状況、作業の進み、病害虫の動き

#### (1) 果実肥大

各品種とも果実肥大は平年並から平年を上回っている。

#### ○果実肥大

(6月21日現在、横径cm、平年比%)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	ふ じ
黒 石 (りんご研究所)	本 年	4.2	－	3.8
	平 年	3.8	－	3.5
	前 年	4.5	－	3.8
	平年比	111		109
青森市浪岡北中野 (東青農林水産事務所)	本 年	3.8	－	3.3
	平 年	3.8	－	3.3
	前 年	4.3	－	4.1
	平年比	100		100
弘前市独狐 (中南農林水産事務所)	本 年	4.0	3.9	3.7
	平 年	3.9	3.8	3.3
	前 年	4.9	4.4	4.0
	平年比	104	104	111
板柳町五幾形 (西北農林水産事務所)	本 年	3.9	－	3.5
	平 年	3.9	－	3.3
	前 年	4.4	－	4.1
	平年比	100		106
三戸町梅内 (三八農林水産事務所)	本 年	4.3	－	3.4
	平 年	3.7	－	3.3
	前 年	4.8	－	4.1
	平年比	116	－	103

注) 各農林水産事務所のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

#### (2) 結実状況

園地によりふじの中心果の結実にバラツキが見られるが、総じて結実量は確保されている。

#### (3) 作業等の進み (6月23日現在)

ふじ等の摘果、袋かけ作業が行われている。

## (4) 病害虫の動き

(6月23日現在 りんご研究所)

腐らん病	摘果後の果柄感染継続中
黒星病	葉・果実とも分生子による2次感染継続中 感染危険度は農なび青森 ( <a href="https://www.nounavi-aomori.jp">https://www.nounavi-aomori.jp</a> ) に掲載中 殺菌剤無散布の県予察圃での新梢葉発病葉率(ふじ) (6月19日 本年:63.4%、平年:36.5%)
斑点落葉病	葉の病斑初発(本年:6月23日、平年:6月25日)
褐斑病	葉の病斑初発(本年:5月30日、平年:6月16日)
ハダニ類	卵～成虫が混在、幼虫～成虫が葉を加害中
リンゴコカクモンハマキ	越冬世代成虫羽化50%日 平年:6月10日
モモシンクイガ	産卵初発(本年:6月11日、平年:6月9日) 現在、産卵継続中
ナシヒメシンクイ	第一世代成虫羽化初発日 平年:6月19日
キンモンホソガ	第2世代卵主体(第1世代成虫羽化50%日 平年6月16日)
ナシマルカイガラムシ	第一世代歩行幼虫の発生が始まる。まもなく発生盛期を迎える。

※調査園地にコンフューザーRが設置されており、対象害虫の誘引を確認できないことから、リンゴコカクモンハマキ、ナシヒメシンクイは平年値のみ示す。

## 2 作業の重点

## (1) 摘果

近年、成らせすぎや摘果の遅れによる隔年結果が見られている。仕上げ摘果は、良品生産や充実した花芽形成のため、できるだけ早く行う。

本年は園地によりふじの中心果の結実にバラツキが見られるので、着果状況を確認しながら、以下のように摘果を行う。

## ア 着果量が十分な場合

下表の「品種別の標準的な着果程度」を目安に摘果を行う。葉が多く付いた果そうになった果実で、つる(果柄)が太く長く、肥大が良好で形の良いものを残す。枝の下面に成った果実や、逆さ実、果台が長い果実(ふじではおよそ2cm以上)はできるだけ摘み取る。

## イ 着果量が不足している場合

中心果だけで標準的な着果程度を確保できない場合は、側果も利用する。雪害で枝量が少なくなった樹や結実不良により着果量が不足している樹は、樹勢

が強くなることがあるので、調節のために発育や形の悪い果実でも残すようにする。ただし、隔年結果を避けるため、過度に成らせないように注意する。

仕上げ摘果を終了した園地でも、随時着果量を点検し、見直し摘果により小玉果やさび果、変形果などを摘み取る。

#### 品種別の標準的な着果程度

品 種	摘果の強さ (残す果実)
紅玉	3 頂芽に 1 果
つがる・ジョナゴールド	3.5 頂芽に 1 果
ふじ・王林・早生ふじ・トキ・シナノゴールド・きおう・金星・シナノスイート・未希ライフ・ぐんま名月・さんさ・星の金貨・千雪・夏緑・恋空・祝・花祝・紅はつみ・秋陽・はるか	4 頂芽に 1 果
北斗	4.5 頂芽に 1 果
陸奥・世界一	5 頂芽に 1 果

#### (2) マメコバチの管理

近年、マメコバチの数が著しく減少している。マメコバチの増殖を図るため、適正な飼養管理に努める。

##### ア 活動後の管理

巣筒は天敵類が侵入できないように農業用不織布などで被覆する。

7 月上旬頃に巣箱を回収し、直射日光が当たる所や高温になる所を避け、風通しのよい日陰に保管する。地面からできるだけ離して、巣筒の内部が過湿にならないように注意する。

冬季に温度が上がる場所（暖房する部屋や日光の入る閉め切った部屋など）には絶対に入れない。

##### イ 巣筒の更新

巣筒を何年も利用し、筒内に古い繭が溜まるようになるとコナダニなどの天敵による被害が多くなるので、巣筒を 3～5 年に一度更新する。

#### (3) 「7 月初め」の薬剤散布

「7 月初め」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で 6 月 30 日～7 月 1 日頃に実施する。地域や天候によっては散布時期が異なるので、前回の散布日や気象情報を参考にする。

「7 月初め」の殺虫剤はピレスロイド剤を使用する。

前年にシンクイムシ類の被害がなく、周辺に放任園など発生源の見られない園地では、次回の「7 月半ば」のシンクイムシ類防除剤を省略できる。

なお、極早生種に散布する場合は、「収穫前日数」に注意して薬剤を選択する。

散布むらが生じないように基準散布量を守り、降雨前の散布を徹底する。

「7月初め」

地域	散布時期	基準薬剤	散布量/10 a
黒石 弘前 三戸	6月30日～ 7月1日頃	<p>ピレスロイド剤</p> <p>（バイスロイドEW 2,000倍 サイハロン水和剤 2,000倍 アーデントフロアブル 2,000倍 イカズチWDG 1,500倍）</p> <hr/> <p>アントラコール顆粒水和剤 500倍 又はパスポート顆粒水和剤 1,000倍 又はチウラム剤 500倍</p> <p>（チオノックフロアブル トレノックスフロアブル）</p> <p>又はオキシラン水和剤 500倍 又は有機銅剤</p> <p>（キノンドー顆粒水和剤 1,000倍 オキシンドー水和剤80 1,200倍） 又はオーソサイド水和剤 800倍</p>	500ℓ

炭疽病の発生が例年多い園地や高温多湿条件が続いて多発が懸念される場合は、パスポート顆粒水和剤、オキシラン水和剤、有機銅剤、オーソサイド水和剤のいずれかを選択する。

輪紋病のいぼ皮病斑が多発している園地では、オキシラン水和剤、有機銅剤のいずれかを選択する。

#### （4）腐らん病対策

摘果後のつる（果柄）から侵入・感染するので、果台につるが残らないようにする。

本年も発生が多い。枝腐らん・胴腐らんを放置すると伝染源となるので、すみやかに以下の処置を行う。

枝腐らんは、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

胴腐らんは、見つけ次第治療する。治療済みの病斑も随時確認し、再発が認められた場合は再度処置を行う。

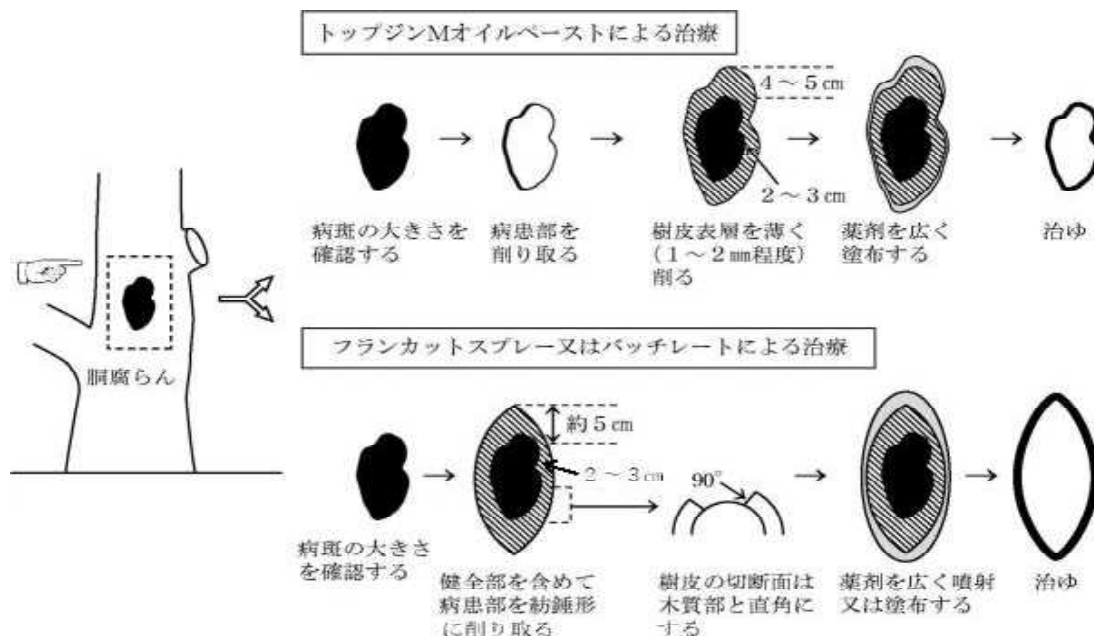
ア トップジンMオイルペースト、フランカットスプレー又はバッチレートを使う場合は、下図のとおり薬剤ごとに適切な方法で処置を行う。なお、トップジンMオイルペーストを使用して再発が確認された場合は、直ちにフランカットスプレー又はバッチレートによる治療か泥巻き法で処置する。

イ 泥巻きを行う場合は、水を加えて団子状にこねた泥を病斑部よりも5～6cm広めに、3～5cmの厚さに貼り付ける。さらにその上をビニール又はポリエチレンフィルムなどで被覆し、内部の泥の乾燥を防ぐようにして約1年間そのままにしておく。病斑部を軽く削り取ってから泥巻きを行うと一層効果的である。

なお、火山灰土壌を使用する場合は、容積比で土が9に対してベントナイト

(土壌改良資材の一種) 1を加えてこねると粘着性が増し、泥巻き作業の効率が良くなる。泥を作るには、土とベントナイトをよく混ぜてから水を入れて練る。この際、ベントナイトは量が多すぎると樹皮が腐敗し、治ゆ効果も低下するので、加える量を誤らないようにする。

ウ 胴腐らんの発病が著しい樹は、伝染源になるので積極的に伐採する。



削り取り法による胴腐らん治療の作業手順

なお、処置方法については、青森県産業技術センターのYoutube公式チャンネルに掲載している。(https://www.youtube.com/@aitcofficial/videos)



二次元コード1  
：トップジンM  
オイルペースト



二次元コード2  
：パッチレート



二次元コード3  
：泥巻き法

#### (5) 黒星病対策

発病葉、発病果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

#### (6) 輪紋病対策

枝幹上のいぼ皮病斑が伝染源となるので、削り取ってトップジンMペーストを塗る。削り取りができない細い枝は、見つけ次第切り取り、適切に処分する。

いぼ皮病斑が多発している園地では、「7月初め」にオキシラン水和剤500倍、

有機銅剤（キノンドー顆粒水和剤1,000倍又はオキシンドー水和剤80 1,200倍）のいずれかを選択する。

#### （7）炭疽病対策

発生が多い所や多発が懸念される場合は、「7月初め」にパスポート顆粒水和剤1,000倍、オキシラン水和剤500倍、有機銅剤（キノンドー顆粒水和剤1,000倍又はオキシンドー水和剤80 1,200倍）、オーソサイド水和剤800倍のいずれかを選択する。

伝染源となるニセアカシアやくるみ類などは、りんご園の周りから取り除く。

#### （8）有袋栽培におけるすす点・すす斑病対策

袋かけ前の薬剤散布が特に重要なので、散布間隔をあけ過ぎないようにし、果実にも薬液が十分付着するようにする。薬剤散布後5日以内を目安に袋かけを行い、その後も袋かけを継続する場合は、次の定期散布までの間に、有効な薬剤による特別散布（実洗い）をしてから行う。

#### （9）シンクイムシ類対策

被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

もも、なし、日本すもも、プルーン、マルメロなども発生源になるので、適切な管理を行う。

#### （10）ハダニ類対策

発生動向を見極めながら適正な防除を行う。散布の目安は1葉当たり2個体以上あるいは寄生葉率50%以上である。殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、年2回以内使用のものでも年1回の使用とする。

ダニサラバフロアブル、スターマイトフロアブル、ダニコングフロアブルは同系統の薬剤なので、合わせて年1回以内の使用とする。

ダニオーテフロアブルは銅剤（有機銅剤及びオキシラン水和剤）と混用しない。銅剤を散布した後は使用しない。また、散布後に銅剤を使用する場合は10日以上散布間隔をあける。

コロマイト乳剤は、6月下旬までの使用を避ける。

オマイト水和剤は、7月下旬までの使用を避ける。

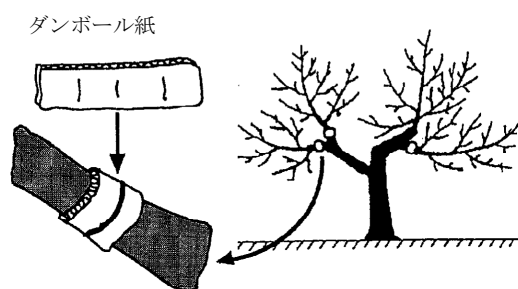
リンゴハダニとナミハダニに対する殺ダニ剤の適用表

薬剤名	年間使用回数	リンゴハダニ	ナミハダニ
サンマイル水和剤	1回	○	×
バロックフロアブル	2回以内	○	×
カネマイルフロアブル	1回	×	○
コロマイル乳剤	1回	○	○
エコマイル顆粒水和剤	1回	○	×
マイルコーネフロアブル	1回	×	○
ダニサラバフロアブル	2回以内	○	×
スターマイルフロアブル	1回	○	×
ダニコングフロアブル	1回	○	×
ダニオーテフロアブル	1回	○	○

○：効果が高い、×：効果が低い

(11) クワコナカイガラムシ対策

発生が多い園地では、バンド巻きによる誘殺を6月下旬（成虫の産卵前）に行い、7月中旬（卵のふ化前）に除去する。



バンド巻きの実施方法

また、6月下旬から7月中旬まで成虫が大枝の切口や木の空洞部周辺に集まるのでブラシなどでつぶす。

(12) ナシマルカイガラムシ対策

ナシマルカイガラムシの第1世代歩行幼虫の発生が始まっている。発生が多い園地では遅れずに防除剤を散布する。散布はむらが生じないように十分量を丁寧に散布する。





ナシマルカイガラムシ歩行幼虫（黄色い点）

### (13) 果樹カメムシ類対策

チャバネアオカメムシの発生が多く見られている。果実が吸汁されると、果実肥大に伴い吸汁部位がくぼみ、奇形果となる。現在は成虫のほか、果実や葉の表面に産み付けられた卵塊も目立っている。園内をこまめに見回り、成虫、卵塊、幼虫が確認されたら、すみやかに捕殺、除去するとともに、必要に応じて、「令和7年度農作物病虫害防除指針」を参考に防除薬剤を散布する。その際、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

令和7年度農作物病虫害防除指針

<https://www.nounavi-aomori.jp/farmer/archives/10884>



チャバネアオカメムシ成虫



チャバネアオカメムシ卵塊  
(果実上)



チャバネアオカメムシふ化幼虫

#### (14) 袋かけ

ふじは有袋にすることで、つる割れの軽減や着色の向上、収穫期の分散ができるほか、販売戦略上も重要なため、個別の労働事情を考慮し、有袋栽培に取り組む。

袋かけは7月10日頃までに終えるようにする。

有袋栽培では、すす点・すす斑病やクワコナカイガラムシの防除対策を徹底する。

#### (15) 乾燥対策

苗木や若木は乾燥の影響を受け易いので、園地の状況を把握し、干天日（降水量5mm未満）が2週間程度続いたら、1㎡当たり20ℓ程度をかん水する。

また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

#### (16) ビターピット防止対策

例年よりも樹勢が強いとみられる場合や、幼果期（6月）の少雨、夏期の高温が予想される場合は、下表によりカルシウム剤を直接果実に付着するように散布する。

樹勢の弱い樹や高温時、あるいは干ばつ時には薬害発生（葉縁褐変）の恐れがあるので避ける。

カルシウム剤の散布方法

資材名	散布時期 (散布間隔)	資材形状	水100ℓ当たり 使用量 (倍数)	散布回数 (回)
スイカル	6月上旬～9月中旬 (10日以上)	粉状	330 g (300倍)	3～5
セルバイン	6月上旬～9月上旬 (10日以上)	粉状	250 g (400倍)	3～5
アグリメイト	6月上旬～9月中旬 (15日以上)	液状	200ml (500倍)	5

(17) 縮果病（ホウ素欠乏）対策

欠乏症状が見られたら、直ちにソリボー（葉面散布用ホウ酸塩肥料）を1,000倍（水1000ℓ当たり100g）の濃度で7～10日おきに2回散布する。

(18) 苦土（マグネシウム）欠乏対策

欠乏症状が見られたら、葉面散布用の硫酸マグネシウムを1～2回散布する。散布間隔は7～10日あける。

苦土欠乏は土壌の酸性化が原因なので、あらかじめ土壌診断を行い、自園の状況を把握する。

（分析の依頼先：JA全農あおもり土壌分析センターか最寄りのJA等）

硫酸マグネシウムの使用方法

資材名	マグネシウム含有量	水1000ℓ当たり使用量（倍数）
グリーントップ	16%	2,000 g（50倍）
グリーントップ70	23%	1,400 g（71倍）

(19) 雪害樹の管理

ア 徒長枝管理

枝の欠損が大きい樹では、樹勢が強くなり、徒長枝が増える場合があるので、そのような場合は、徒長枝整理の時期を早める。

イ ビターピット対策

雪害の影響で例年よりも樹勢が強い場合は、ビターピットが多くなることが懸念されるので、適宜、対策を講じる。

※（16）ビターピット防止対策：カルシウム剤の散布方法参照

ウ 接ぎ木後に伸びた新梢の結束

接ぎ木や高接ぎ後に伸びた新梢は風で折れやすいので、添え木や支柱に結束する。

エ 雪害を受けた枝の支柱の手直し、側枝の吊り上げ

果実の肥大に伴い、復旧した雪害の傷口が、再度開いてしまう場合があるので、傷口が開かないよう適宜見直しを行う。

オ 新梢長穂接ぎによる雪害樹の復旧

休眠枝で接ぎ木ができなかった場合は、当年に伸びた新梢を利用する「新梢長穂接ぎ」により復旧を行う。「新梢長穂接ぎ」は特に6月下旬から7月上旬が適期である。

新梢長穂接ぎは新梢を利用するので、穂木の確保が容易であり、また、早成りするため、早期の復旧が可能である。

ただし、穂木を採取する際には以下の点に留意する。

- ・登録品種は増殖の可否を確認する。
- ・高接ぎ病を回避するため、自園の、高接ぎを一度も行っていない、樹勢の

よいマルバ台樹から採取する。

ア) 穂木の選び方

穂木は、伸長の止まっている枝を使い、緑枝の部分を切除して木質化した部分を使う。葉柄に葉を少し残した状態で葉を切り取る（図1）。

イ) 穂木の調整

穂木を削る際は、くさび形にし、中間台の皮部側に接する部分は長めになるように削る（図2）。

ウ) 切皮

中間台の接ぎ木する部分をコの字型に切皮する。皮が厚い場合はナイフ等で上皮を削いでから行くと切皮しやすい（図3）。

エ) 穂木の挿し込み

穂木を中間台に挿し込み、コの字型の内側に穂木を固定する（図4）。

オ) 切り口の保護

切口保護剤（カルスメイト）は、テープで縛ってから隙間を埋めるように塗る（図5）。

風による枝折れが心配な場合は、接ぎ木の翌年に接ぎ木部位の真ん中に釘を打って固定する（図6）。また穂木が風で揺れないようにひもで縛って固定する。剪定は接ぎ木した枝に本格的に花芽が着生した年から行う。



図1 緑枝部分をカット、  
葉を少し残し切除



図2 穂木の削り方





図3 コの字型に切皮



図4 穂木の挿し込み



図5 切口保護剤で隙間を埋める



図6 接ぎ木の翌年に、接ぎ木部位の真ん中に釘を打って固定

※画像提供元：公益財団法人青森県りんご協会

なお、接ぎ木方法については、青森県産業技術センターのYoutube公式チャンネルに掲載している。

(<https://www.youtube.com/@aitcofficial/videos>)



### 3 その他一般作業

(1) 追肥（6月末まで） (2) 草刈り (3) ひこばえ、徒長枝の整理

### 4 今後の作業予定（7月5日～7月25日）

(1) 摘果の見直し (2) マメコバチの巣箱回収 (3) 薬剤散布  
(4) 腐らん病対策 (5) 徒長枝の整理 (6) 高接ぎ樹の誘引及び結束  
(7) 支柱入れ、枝つり (8) ビターピット防止対策 (9) 草刈り

《 雪害を受けた樹の伐採・抜根等に必要な作業用機械の借上げ経費を支援します 》  
県では、雪害を受けた樹の伐採・抜根等に必要なバックホーなど作業用機械の借上げ経費を支援しています。

令和6年12月以降の経費が対象となりますので、詳しくは申込先までお問い合わせください。

申込先：各地域の果樹産地協議会

申込期限：令和7年8月末日まで



青森県農薬危害防止運動展開中（6月～8月）！

《 農薬使用基準の遵守 》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

農林水産省「農薬登録情報提供システム」 (<https://pesticide.maff.go.jp/>)

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 熱中症対策を行いましょう！ 》

◎熱中症予防運動を展開中です（6月1日～8月31日）

熱中症による緊急搬送者が近年増加傾向にあります。こまめな休憩をとり、水分・塩分補給を行い、熱中症を予防しましょう。

◎労働者への熱中症対策が義務化（罰則あり）されました

本年6月に労働安全衛生規則が改正され、労働者を雇用する全ての事業者に対して、熱中症対策が義務付けられました。

熱中症対応フローなど必要事項を記載した「張り紙」を事務所等に掲示しましょう。

「張り紙」のひな型については、青森県農業・就農情報サイト「農なび青森」に掲載しています。



《 農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを!! 》

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

詳しくは、お近くの農業共済組合まで、お問い合わせください。

—— 《 りんごの雪害を補償する「果樹共済」の加入申込が始まります!! 》 ——  
今冬の記録的な豪雪により、りんごの枝折れや幹割れ等が発生し、過去最大の被害となりました。  
りんごの雪害を補償する「果樹共済」の総合一般方式と樹体共済の加入申込が、  
6月5日（木）から始まります（7月4日（金）まで）。  
加入申込やご相談は、お近くの農業共済組合（本所・支所）をお願いします。

---

農作業安全を心がけましょう！

---

次回の発行は令和7年7月4日（金）の予定です。

連 絡 先：りんご果樹課生産振興グループ  
電話番号：017-722-1111 代表  
内線5148、5149  
017-734-9492 直通